

山の夜（嵯峨天皇）

居を 移して 今夜 薜蘿に 眠る

夢裏の 山溪 暁天を 報ず

覚えず 雲 来つて 衣 暗に 湿う

即ち 知る 家は 深溪の 辺に 近きを

移居今夜薜蘿眠 夢裏山鶏報暁天
不覺雲來衣暗濕 即知家近深溪邊

解説 嵯峨天皇が、山荘に仮泊されたときの感興を述べられた詩である。

語釈 ※薜蘿 Ⅱ 柎まさきの葛かずらと、蔦葛つたかずら。植物。蔓性植物の総称。

※夢裏 Ⅱ 夢の中。※山鶏 Ⅱ 山鳥。きじに似た鳥である。

※暁天 Ⅱ 明け方の空。※暗 Ⅱ いつの間にか。知らないうちに。
※湿 Ⅱ しめる。濡らす。

通釈 今夜は久しぶりに宮中から出て柎まさきの葛かずらが垂れ下がった木深いところの山荘に泊まった。ぐっすり眠った明け方、夢がまだ覚めやらず、うとうとしているときに、山鳥の鳴く声が聞こえた。起きて出て見ると雲がかかっている、いつの間にか衣が湿っている。なるほどこの家は深い谷川の近くにあるのだ、ということがわかった。